

文化

小説は複雑ではかりしれない人の心を写しとる。

「星座盤」14 (大阪府摂津市正雀本町2の26の14・清水方) 丸黄うりほ「永遠をバカにする」。臨死ののぶこは高みから末期がんの夫、51歳の息子こうちゃん、肥満の中年女性なのに「永遠の50歳児」と嘯く息子の嫁はなちゃんを見ている。心は女性のような息子は、描き続けてきた漫画が縁ではなちゃんと結婚。が、彼女はのぶこが頼んでも家事一切をしない。息子は嫁を永遠の幼児だと庇い、会社も辞める。嫁は機嫌を損ねると、息子の大切な漫画本などを外に投げ捨てる。2人の50歳児は喧嘩しては仲直りを繰り返し、ついに息子は自死。家

同人誌 カオスに満ちた実験作

族崩壊や嫁姑の葛藤など現代社会の諸問題をミキサーでかき混ぜたような、カオスに満ちた実験作だ。

同誌の水無月うらら「手のなかの水」。30代半ばの女性、薫は積年の願いも、思い切って告白した同性への愛も叶えられず、仕事も物憂く密かに自死も考える。そんなとき、父に連れられ昔懐かしい「金魚すくい」へ。その後、たぐ焼きを食へ酒を飲む。彼女にとってささやかな救いとなった1日を鮮やかに描いた佳編。

「あるかいど」69 (大阪市阿倍野区丸山通2の410の203・高島方) 冒頭の「パンデミック特集」は読み応えがあった。高島寛「奈津の乳房」。高校時代からの親友大川の死をきっかけに従妹奈津の思い出が蘇る。そんなとき、所用で大阪に来た奈津と10年半ぶりに再会。ぼくが大学3年、奈津が中学3

年、従兄妹同士というタブー意識を持ちながら互いに淡い恋心を抱き、膨らみ始めた奈津の乳房を触ったり、浜寺へ海水浴に行ったりした。往事の思い出や奈津に求婚した大川のことなど、ぼくの青春が鮮烈に描かれた好編だ。

同誌の切塗よしを「青く染め」は、国際的な建築家となった有島紀代「子の印象的なラスト」が記憶に残る。

「革」33 (神戸市西区押部谷町西盛584の1・善野方) 玉田崇「独走II」。鶏太は週末のランニングに倦怠を感じ、コースを替える。新しいコースで鶏太はかつて心を通わせた「あの人の幻影と出遭う。果たしてそれは心の残渣か? 鶏太は最後に、自分の煮え切らない思いがすべての原因だと悟る。儂い男の純粹な思いが哀れた。

(野元 正・作家)

2020.11.27朝刊

小説は人の心の闇を描くことができるのだろうか。

「せる」114 (大阪府柏原市片山町9の15・益池方) 津木林洋「ミューズよ」は、鎌倉に住む大作家小野寺龍造と、小説家を志す住み込み美人秘書千秋、前の秘書で元愛人の多恵子、小説を書く中2の孫翔太とその家族、龍造を崇拜する著名作家静原麻里などと複雑な人間関係に、現代の出版事情が絡む中編力作。家族の愛情、千秋の文学賞受賞作に対するプライバシー侵害と盗作の言いがかりなどを、章ごとに翔太、龍造、千秋による三つの視点で語る。

また、本作品は物語を借りて創作の心得も説く。龍造は孫に「20歳までは名作を読め」と指南しつつ、出版社は違うが自身のエッセー集と翔太の作品集の同時出版を認め、合同で宣伝す

同人誌 人生から浮かぶ心の闇

るのを承諾、孫への愛情を見せる。恋愛関係なしの千秋の献身と信頼関係も胸にしみる。静原が座右の書とする龍造の私小説「四ツ谷橋から」では、龍造の実母絞殺未遂とそれに絡む翔太の父との確執の謎、龍造の人生、その背景から浮かび上がる闇が描かれ、印象的だ。

「姫路文学」134 (姫路市飾磨区今在家3の27の1・中島方) 中島妙子「風のエピタフ」。エピタフとは墓碑銘の意。村で美人の誉れ高かった美也子は色褪せた白無垢の打ち掛けを羽織り、手にはプラチナの指輪が入った紅色の中着袈を握りしめ、生涯独身のまま72歳で謎の死を遂げる。

る。

生徒の兄から美也子を描いた絵を贈られ、求婚されるが断る。だが一緒に転勤してきた2歳年下の理科教師・水上に惹かれ、映画鑑賞などデートを重ねて結婚の約束をするが、彼はあっけなく交通事故で死ぬ。妊娠していた美也子は、素肌に白無垢姿で結婚指輪を灯りにかざし墮胎を決意し、一生を独り生きる覚悟を固める。儂くも切ない女性の一生を描く佳編だ。

「ばさーじゅ」42 (京都府八幡市橋本興正7の4・石野方) 奈里朋「好色水当番」。五十数年ぶりに故郷に戻った田岡俊夫を鎮守の守り役や田畑の水当番など村のいろいろな役目が待っていた。神々との触れ合いに素朴で土俗的な色気を感じる好掌編だ。

(野元 正・作家)

小説は、人生とは何か、描くことができるのか。

「てくる」27 (大津市竜岡30の15の713・平野方) 耽羅沢楮「わけあって飼うことになりました」。デパートの婦人服売り場課長武糧惣季は、売り上げ低迷の対策を迫られていた。そんなとき、家で犬を飼う。ネオと名付けられた子犬は惣季にも懐き、散歩に行く。すると気分が晴れやかになる。ネオの話で夫婦の会話も復活する。さらにネオとの散歩中に浮かんだカラーフォーマル服の販促案が当たる。惣季の部長昇進や娘の希望通りの就職など「晴れ犬」ネオが来てから家族の運氣が上がったが、ネオの死を機に惣季は早期退職する。

退職後は週3日、衣料品の検品アルバイトをしながら趣味の

同人誌

人生の不可思議さ

水彩画に凝る。ある日、雪景色の神社で弱った犬ハクと出会う。ハクは、惣季、宮司ともに縁があった踊りの師匠の飼い犬だった。ハクを介した縁で、宮司が輸入婦人雑貨店の二代目に、新店舗の店長に惣季を推薦するが、二代目はどうも乗り気でない様子。そんなときハクが事件を起こす。2頭の犬が惣季と家族に上昇運気をもたらす。人生の不可思議さを描いた佳編だ。

「黄色い潜水艦」72 (宝塚市売布4の3の30の3314・山口方) 天野律子「夢の残り・ミノムシ」50歳手前、アラフィフ独身の那奈が穏やかに衰えていった父と、不定愁訴の母の最期を看取るまでを巧みに描く。特に沙羅の花を「一日花の儚さ」と愛した父と、落花を死んでいくためと思う母の、ある意味、残酷といえる対比が見事。ミノムシについて「雄は羽化して飛び立ち、雌は繭の中で一生を終える」という父母の会話も、先の花の捉え方と同様、父と母との葛藤を表徴しているのだろうか。人心に潜む死への思いが感じられる好編だ。

「稲麻竹葺」6 (大阪市中央区粉川町2の7の711・猿川方) 副題は「神々との治療」。

芦原瑞祥「疫病と花鎮めの祈り」。かつて人類は疫病退散を神に祈るしかなかったという。「花鎮め」花が散るとき疫病が花と一諸に飛散する」という考え方がおもしろい。

同誌猿川西瓜「禍々しさと新しい約束」。古代オリエント医学も含む「医心方」という重要書物が印象に残る。

(野元 正・作家)

2020.09.24朝刊

小説は人生にふりかかるさまざまな試練を描く。

「Igneae (イグネア)」
9 (大阪府三島郡島本町青葉3の2の2の501・岩田方) 岩代明子「長谷川書店で会いましょう」。構成が秀逸な作品。「章前」では主題、すなわち大型書店の台頭で滅び行く町の小さな書店への「私」の愛惜を語る。

各章それぞれで「私」が住む町の長谷川書店にちなむ物語が描かれる。ノーベル賞作家アリス・マンローの新刊などを置くユニークな書店▽孫娘お気に入り野菜絵本▽書店で待ち合わせ幼なじみとの蛭狩り▽夫の漢文赤点のてん末、中島敦「山月記」や漢文教師の終戦の日の述懐▽エンデの「モモ」に熱中する少女の話。

「章後」で記される「私」と

同人誌 書店への愛惜、秀逸な構成で

長谷川書店主との会話は、「章前」の薄暗い本屋で立ち読みする少女の至福の刻と重なる。

同誌の小倉哲哉「バーナード33」は競馬の迫力とは対照的に物憂い心理描写が印象的だ。

「淡路島文学」16 (洲本市上内膳199・辻方) 藤井美由紀「鳩の飛翔」。鈴江は外科医の夫、義夫の精神的虐待を受け体調を崩し、息子俊樹にまで癩癩などの影響が出て離婚。母子の生活を始める。俊樹のため再婚もうまくいかず再び離婚、精神安定剤を服用し懸命に働く。虐待の幻影に悩まされ自死の誘惑にかられるが、アパートのベランダに巣くったハトの飛翔に救われる。始めたお好み焼き屋も軌道に乗り、俊樹の健全やかな成長と父母や弟の支えもあって次第に回復に向かう。精神的虐待という現代社会の闇を

巧みに描いた中編だ。

「あるかいど」68 (大阪市阿倍野区丸山通2の4の10の203・高島方) 高島寛「潮夏」。

中学2年生の「私」は祖父父母の住むオホーツク海に面した北海道の漁港の浜辺で隣家の同学年の少女紀子と出会い、初めて淡い恋心が生まれる。高校3年の夏、受験勉強のため再び祖父父母の家に滞在。札幌の高校から帰省した紀子と再会し、勉強そっちのけで夏の海で遊び恋に落ちるが、夜光虫の光る夜の海での出来事をきっかけに2人の恋は終わる。青春の痛みをさわやかに描く好編だ。

同誌の木村聖子「アフリカの手」は壮大な紀行小説。その確かな筆致に圧倒された。特にマサイの矜持が心に残った。

(野元 正・作家)

2020.08.27

小説は世代ごとの心情を巧みに映し出す。

「別冊關學文藝」60（大阪府和泉市光明台2の48の47・伊奈方）。本誌は年2回発行30年、その還暦と継続の情熱を祝した。また同誌の表紙を飾って創刊1990（平成2）年から58号までともに歩んだ神戸ゆかりの石阪春生画伯（詩人・竹中郁の甥）追悼号でもある。白黒縮小版だが各号の表紙が掲載されている。

浅田厚美「百年の咳」。「私」は、満壽の百人一首の相手として雇われたヘルパー。カルタの手ほどきを受けながら彼女の百年の人生を聞く。高揚した満壽は時々、咳き込む。百歳を迎えてすぐ逝った満壽。私は百日咳ならぬ「百年咳」だと思う。満壽は19歳で、ある町の大地主である杉山家に嫁いたが3年

同人誌 女性2人の神秘的な世界

過ぎても子をなさず、離縁を覚悟が、義父母を相次いで失い、貧しい家の子、浩一郎を養子に迎え異常なほどかわいがる。若くして婚家の実権を握った満壽は町でも一目置かれる存在に。そして今、満壽のひ孫は駅前の総合病院院長を務める。満壽の妻子存在疑惑の物語をカルタ歌と絡めた秀作だ。

「カム」18（大阪府高槻市深沢町1丁目15の11・伊藤方）早高叶「汀にて」。40歳を過ぎた独身女性管理職の「私」と31歳、書店員の未生は駅前のカフェで知り合った。孤独を抱える「私」は鏡に映った自分の姿を未生に重ねる。未生が言うような輪廻転生の2人とは思われないが、本の趣味が同じで心地よく、一緒にいることは好んだ。

未生が望んだ水仙の花束を持って初めて彼女の家を訪ねた

日。鍵の開いた部屋に彼女はおらず、歓迎の気持ちだけが漂っている。へひとが見ていない時は、水になっっているんですよ。やがて未生の凍死体がベランダで見つかる。彼女は水になり凍ってしまっただろうか。女性2人の神秘的な世界を垣間見た印象だ。同誌の後藤高志「あともうひとつ」は愛のなくなった夫婦の話。身につまされ、心に沁みだ。

「浮橋」5（芦屋市松浜町5の15の712・小坂方）小坂忠広「夜の花」は、世情を反映させたエッセー。隠語のような表題にひかれて読み始めたが、小用の際、赤い球が飛び出したら男性機能終焉の証拠など、ユニークな説が面白い。

（野元 正・作家）

2020.07.30

家族の愛憎を描くことで人間の心の闇深くに迫る。

「樹林」662（大阪市中央区谷町7の2の2の305新谷町第1ビル3F・大阪文学学校気付）南水梨絵「三輪車と花束」。24歳の亜衣はいじめが原因で会社を辞め、独り暮らしの72歳の祖母のもとに転がり込む。辞めた理由を詮索しない祖母の、中ぶらりんさが心地良い。祖母は雨の日以外は早朝、三輪自転車ですぐどこかに出掛ける。一方、亜衣は祖母と3カ月、自堕落な生活から抜け出せないでいる。祖母の靴下を繕っているとき、初めてどうするつもりか聞かれ、「もうすぐ出て行く」と答えると、「そらよかった」との返事。

ある日、祖母が他家の花鉢を盗んだと警察から電話がかか

同人誌 現代社会の闇をえぐる

る。祖母の徘徊癖を知る亜衣は、認知症が疑われる祖母を置いて出て行くことはできない。「あと少しだけこのままで」。祖母との暮らしで微かな光を見つけた亜衣の心の変化、祖母の人物描写など巧みな表現が光る秀逸な作品。

「飢餓祭」46（奈良県大和高田市市場84の26・夏当方）夏当紀子「草の葉」。31歳の看護師・果奈は、姉とともに父親からドメスティック・バイオレンス（DV）を受けた。果奈はある病院の師長から「逃げてはダメよ」と忠告されるが、物事が行き詰まると逃げだし、病院を転々としてきた。かつて市民病院で小児科に勤務したころ、DVを受けた疑いのある少女に遭遇。昔の恐怖がよみがえり、逃れるように病院を辞めた。

今は小さなクリニックに転職、安アパートで不安な日々を過ごす中、フィットネスジムに通い心のよりどころとする。アパートの隣室では少女が父親からDVを受けている様子。果奈は勇気を奮い、ジムの講師や仲間の協力を得て少女の救出に動く。果てしないDV荒野。現代社会の闇を着実な筆致でえぐる好編だ。

「文学こうべ」24（神戸市北区惣山町4の19の14・大藤方）石原萌「合わせ鏡」。稲作農家の本家の長女ひとみは、夫で婿養子の祐介、実母・弘美との3人暮らし。何かにつけて「合わせ鏡」のように性格の似た母と折り合いが悪い。その経緯やひとみの心理描写が絶妙、印象に残った。

（野元 正・作家）

2020.06.25朝刊

人は得てして、忘れてはならないことを忘れる。

「たまゆら」117号（京都市伏見区西尼崎町890の2・中川方）平井利果「恋知らず骨もなき兄」。登志子と長兄の親族3人は、沖繩戦で戦死した私の次兄秀二（山3480部隊Ⅱ野砲兵第42聯隊所属）を偲ぶため、戦死の地、真壁へ赴く。戦後間もなく届いた箱には灰色の石一つと名前、沖繩・真壁、昭和20年6月22日戦死、21歳と記した小さな白木の位牌のみ。真壁を巡り、兵士だけでなく多くの沖繩県民と野砲聯隊の戦馬の死を悼む。沖繩戦から75年。戦争の愚かさを思い知らされる作品。〈恋知らず骨もなき兄沖繩忌 登志子〉の句も哀しい。同誌の前主幸佐々木国広「灯籠叢記」も貴重な回想録だ。

「革」32（神戸市西区押部谷

同人誌 戦争の愚かさ切々と

町西盛584の1・善野方 玉編だ。

田崇二「平成金貨」。健三の父

「せる」113（大阪府柏原

は、酒と母への暴力が昂じて家庭を捨て失踪、独り死んだ。健三は彼が今住む街と同様、昔から差別されてきた地域にある父の空き家を訪ねる。そこで手掘り金庫の中から昭和天皇在位60年記念金貨と「1984年、健三、小学校1年生」と書かれた紙片を見つける。こんな金貨でしか息子への思いを表せない父に、喜びと同時に怒りを覚える。昭和生まれだが、学業、就職、結婚など人生の大切な節目は平成で迎えた健三は、どういうわけか平成天皇在位30年記念の金貨を買う。そしていつか息子たちに自分の来し方と、「水平社宣言」のことを話さねばと思う。家族、そしていわれなき差別・永遠の課題と現代社会が抱える闇を見つめる好短

市片山町9の15・益池方）若林亨「尻もち」。60歳の定年を迎えた哲司は身体の衰えを感じ、一人息子も独立したと、再雇用を断る。だが最近、数日前の町内の葬式に参列したかなど記憶も定かでなくなってきた。妻咲江は物忘れの多さを心配するが、哲司は認めたくない。咲江の誕生日を祝うイタリアンレストランの予約の行き違いなどから、咲江はメモを作り、哲司の記憶を保とうとする。だが同級生との旅行や孫の命名依頼なども忘れた哲司は、自分だけ疎外されたような寂しさを感じる。認知症という言葉をあえて使わず、本人と家族の不安や互いの行き違いを巧みに描いた好編だ。

（野元 正・作家）

2020.05.28朝刊

小説の意図は、読者次第で果てしなく広がる。

「異土」18（奈良県生駒市青山台342の98・秋吉方） 湖海かおる「箱家」。奈津の65歳の夫修は彼女の反対をよそに今住んでいるマンションを処分し空き家となっている古い実家と2戸1の隣家も買い足し解体、一戸建てを建てる計画だ。夫妻には発達障害の娘亜美35歳がいる。「箱庭療法」を受けるも、いまだ終口、ゴミ部屋にこもりきり。おまけに奈津の妹レイコも心身不調で、パラサイト中だ。奈津は亜美やレイコの存在が気にかかるが、ゴミ部屋の掃除、建設会社の営業マン三原との連絡調整、現場技術者への心配り、近隣住民へのあいさつや苦情処理に追われる。

ようやく新居に住み始め、落

同人誌 少年の思い、哀愁に満ち

ち着きを取り戻し始めたとき、レイコが、亜美が箱庭療法で使ったフィギュアを箱の上に置く。奈津は亡霊のような姿の彼女を病院に預け、小さな箱家だけれど早く帰りたいと思う。家族とは何かを問う原稿用紙93枚の秀作だ。

「AMAZON」499（神戸市西区竹の台2の12の4・寺岡方）北川珪子「世界で一番」は、昭和40年代前半の尼崎の小学5年生礼子と転校生の少年の物語。勉強は不得意。やせて首の長い礼子を「ツル」とからかうが、普段は厳しい担任も咎めない。少年は習字の時間、礼子がくれた1枚の画仙紙の札に「世界で一番きれいなもん、見せたる」と約束。礼子が催促すると、颯と海を航行する白い帆船の新

聞写真を見せてくれる。少年の「世界で一番」は、尼崎を流れる庄下川の五合橋から見た、工場群の彼方に輝く夕陽だった。

礼子は少年が父の仕事で大阪、兵庫と転校を繰り返す水上生活者だと知る。劣悪な環境の中だからこそ一層、世界で一番の夕陽と白い颯とした大帆船に憧れる、少年の思いがこもる哀愁に満ちた好編だ。

「文学雑誌」91（大阪府豊中市緑丘4の29の3・大塚方）戦後間もない1946年創刊の著名な同人誌だ。創刊同人は錚々たる藤澤桓夫、織田作之助、長沖一。他に井上靖、庄野潤三、杉山平一、小野十三郎らが寄稿している。74年間続き今号をもつて休刊。惜別の想いだ。

（野元 正・作家）

小説は人の心の闇に潜む知られざる物語を紡ぐ。

「港の灯」12（神戸市須磨区須磨浦通2の3の29の604・絹田左）牧美貴江「そのときはよろしく」。商社勤続33年、女性管理職の千賀子はバツイチで、80歳の母と二人、穏やかな日々を過ごす。そんなとき、30年前、父が亡くなったとき、一方的に絶縁宣言した叔父から母に「入院中の妻を見舞ってほしい」と電話があった。他に頼る人がないらしい。情にもろい母は渋る千賀子と共に見舞いに行き、亡くなった後は葬儀にも参列する羽目に。「これでおしまい」と付き合いを拒絶した母に、独居老人となった叔父は「そのときはよろしく」と身勝手な態度を崩さない。作品の随所に巧みに埋め込まれた暗喩「千賀子の親知らずの痛み」がじわりと沁みる。血縁とは、親族とは何かを考えさせる好編だ。

同誌の三浦やす「あてどない刻」は80歳の昔々女たちの同窓会後、主人公は故郷近くの町のスーパ―をあてどなく彷徨う。女の孤独が切ない掌編。

2020.04.30朝刊

同人誌

血縁、親族とは何か問う

らら「可燃」。20歳の大学生「私」と30歳上の妻帯中年漫画家「恒さん」は、ブログを通じて意気投合、遠距離恋愛を続ける仲だ。〈年賀状が来なかつたら、死んだと思つてね。〉と言つていた恒さんから、賀状が届かなかつた、というところから物語は始まる。「私」は温かい彼の言葉や身体、未練が残る別れなど、彼への想いを回想する。それを断ち切るため長い髪を切り、詣でたこともない神社のとんど神事で焼き、ようやく恒さんの死を実感する。年齢差を超えた恋を通じ、少女から大人へ成長する女心の軌跡が見事に描かれる。同誌の三上弥栄「りだつダイアリー」は、抗うつ剤から離脱を図る苦悩が日記風に描かれ読み応えがあった。

「繫」16（大阪府吹田市佐竹台4の1の10の11111・佐久間左）佐久間慶子「満州偽満州」呼蘭河と松花江が交わるころは、1937年、冬に向かう満州帝国下の哈爾濱とその郊外、呼蘭が舞台。組合設立を目指し、画家で教師の中国人女性とともに、中国の大豆農家の説得に奔走する日本人青年を描く。なぜそこまで力を注ぐのか、青年の意外な物語が印象深い。（野元 正・作家）

継続は力なり。それを再認識させてくれる3誌から紹介する。

「あべの文学」30（神戸市須磨区友が丘8の201の18・森口方）芥川賞候補作家・奥野忠昭の「巻頭言」には今号で15年30号とある。森口透「ヘーゼル色の瞳」。

「私」は、エッセー教室の講師を務めるK市文化センターで40代の受講生朋子と出会う。彼女の瞳は日本人としては薄い茶色のヘーゼル色。教室ではいつも最前列に座り、講座後の茶会でも積極的に質問する朋子に、古希を過ぎた私はうろたえる。ふと、彼女の瞳から高校3年生のときを思い出す。高嶺の花だった同級生彩子に数学を教えてと頼まれた。私は、心躍る時間に浮かれ成績が落ちるが、その思いを断ち切り、京都の大学に合格。彩子も東京の女子大に進学し、やがて音信も途絶えた。そして今、受講生朋子は夫の転

2020.03.31朝刊

同人誌

継続の力、見せる3誌

勤でこの地を去ろうとしている。そのとき、私は意外な事実を知る。人と人の出会いに不思議な縁を感じさせる秀作だ。同誌の翔明子「柳陰」は古典落語の「青菜」にヒントを得た。植木屋を変え、「雑木の庭」に改造。みりんを焼酎で割った「柳陰」を飲みながら風情を楽しみたいという。手慣れの妙味が印象深い。

「V.I.K.I.N.G」830（和歌山県伊都郡高野町高野山757・田寺方）。著明な作家を輩出した神戸発祥の同人誌なお健在。

宇江敏勝「寒川の秋祭り」。郷土作家のわたしは、地元新聞に紹介された旧寒川村（現、和歌山県日高川町）にある寒川神社の祭りに興味を持つ。かつて村は植物の繊維を紡いだ「藤布」や楮和紙、干し椎茸、木工加工の木地師で知られ、祭神の編成は獅子舞、鬼役の王仁と和仁、薙刀振りの稚

児、笛、太鼓に鉦。記事を書いた寒川東洋子の案内で村を訪れる。

今では過疎化が進み祭りの担い手が減少。神楽の多くを女性や子どもが担い、王仁役は、わざわざ祭りのために帰省してもらうのだと東洋子は憂う。往時ほどではないものの、村の女性は晴れ着で祭りを祝う。わたしは村の長い歴史と、村人の営みにも哀しさを感じる。各地の祭りが衰退・消滅の危機にひんする現代、民俗的な記録文学は貴重といえよう。

「法螺」80終刊号（大阪府文野市神宮寺1の26の6・西向方）西向聡「さらば法螺よ」枚方文学、花も嵐も半世紀」。風変わりな誌名は「ホラ吹き」に由来する。1977年の創刊から40年余り、その歩みを述懐している。人生100年時代、主宰の労をねぎらいつつ、しばらく休刊ということにしておこう。（野元 正・作家）

2020.02.28朝刊

小説は人の心の闇に一筋の光明を与えるものでありたい。

「mon」15（大阪市阿倍野区帝塚山1の10の45の208・飯田方）キンミカ「チキンファット」。女子高の同級生、香帆と貴和子は退学して家出。教師の佐越家に居候し、アルバイトをしながら定時制に通う。ある日、貴和子が病院に救急搬送され、薬による自殺未遂かとうわさされる。貴和子の家はスナックを営むが、母がホストに入れ込み、生活は楽ではない。

在日朝鮮籍から日本国籍を取得した香帆は、「エイコリアン（エイリアンとコリアンの合成造語）追放」と叫ぶヘイトスピーチのデモに遭遇し悩むが、やがて意を決して、貴和子たちに出自を告白する。

ある日、香帆は佐越先生と貴和子が、普通とは違う性癖の性的関係にあることを知る。貴和子は生活のためという。一方、

同人誌

心の闇に一筋の光

2020.2.28

佐越の息子光一も父親の異常な性癖を知っていてわら人形と小鳥の死骸で父を呪い、彼女らに出で行けとのしる。佐越家を去る朝、香帆と貴和子は光一と交わした約束に、一縷の光明を感じる。差別や貧困がまん延する現代社会を巧みに表象する約160枚の力作。同誌の飯田未和「茄子を植える」。男の身勝手さが印象に残るユニークな作品だ。

「メタセコイア」16（大阪市都島区大東町1の5の10・土居方）和泉真矢子「白い闇」。物語は、主人公恒子の夫、圭一の母が亡くなり、横浜の教会で葬儀を行う場面から始まる。脚が少し不自由な恒子は後妻で子どもはなく、出張の多い圭一の留守時の慰めに始めた紙粘土人形の教室を主宰している。圭一はいとこと結婚していたが、親戚同士のいさかきもあり、一人娘弘美には会わない約束で離婚し

た。母を引き取っていた横浜の姉からは、圭一がかつて前妻と、その後、亡くなった母も過剰に神戸の家を処分してはと打診されるが、圭一は煮え切らない。一方、恒子がかつて神戸の家で弘美の塗り絵を偶然見つけ、圭一の大切なものと知りながらバス停のゴミ箱に捨てたことがあり、以来、ずっと弘美の幻影を感じていた。葬儀にはその前妻と娘も参列。そして霊柩車はその恩讐を超えて降りしきる雪の「白い闇」に消える。女の意地と嫉妬と葛藤を繊細な感性で見事に描いた秀作。

「黄色い潜水艦」71（宝塚市売布4丁目3の30の3314・山口方）木下衣代「はんぶんの光」。心を病んだ妹を思いやる姉の複雑な思いを描く。タイトルの「はんぶん」は何の暗喩なのか。語り口調が独自の世界を創造していて読み応えがあった。（野元 正・作家）

出会いは人生に彩りを与えてくれる。

「せる」1112（大阪府柏原市片山町9の15・益池方）吉川猛「ザ・スリープ」。高校の同窓会で再会した会社員の学と芳樹は、最近離婚したばかり。部屋でB級ホラー映画を見てから、冷蔵庫のチーズケーキや大量の綿棒が消え、代わりにクマのぬいぐるみが部屋に出現するなど、学の周辺で異変が起こる。心療内科などを受診するも要領を得ない。精神科病院に入院したら元妻のもとにいる愛猫との月1回の面会もできなくなる。学は必死でインターネットを調べまくり、予知夢、正夢などに詳しい睡眠セラピストのサイトにたどり着く。

その主宰者、杉田先生のカウンセリングを直接受けた学は他人の夢にアクセスできるようになり、会社の上司や芳樹の夢にも侵入する。やがて学は、他人の夢を経由して離れた場所に瞬間移動し、物を持ち帰った

2020.01.30朝刊

同人誌

人生を彩る出会い

り置いてきたり。未来を予知する夢も見ることができるようになる。錯綜する夢と現実のねじれやもつれを巧みに描いた興味深い作品だ。

「あめんすい」32（神戸市東灘区向洋町中5の5の532の202・西川方）西川京子「鉄と仲間たち」。物語はジャズ・バーのなじみ客、51歳の鉄と鉄二と高齡の男、高山が互いの来し方を語りながら進む。鉄は建設技術者として大阪に単身赴任。親分肌の日本男児を気取る

が、異業種国際パーティーで知り合った大阪府の国際関係外郭団体職員加奈や英国商社の役員秘書、中国系シンガポール人の社会学者らとつき合うにつれ、男はこうあるべき、という考えに疑問を抱き始める。泳げない4人は「中年水泳団」を結成。レッスン後の飲み会やコーチとの恋愛沙汰を通じ親密さが深まる。

高山は金融機関で外為や中小企業融資などを担当する一方、

税理士資格を取得。株の投資や女遊びにも精を出し、32歳でビジネスコンサル会社を立ち上げたが、苦勞続きだった。思いを寄せる女性の話に、加奈への鉄の思いが重なる。仕事を離れた仲間との交流が人生にとつていかに大切か、教えてくれる。同誌の村上由起「年齢を重ねる」。

「ばさーじゅ」44（京都府八幡市橋本興正7の4・石野方）西希美那「マスカレードにて」。探偵事務所の若い女性所員が会員制喫茶店を舞台に行方不明の高齡女性を探す物語。同誌の林道代「斑猫」。斑猫とはへ派手な青い色に赤や緑や黄色の色を背中にあしらった足の長い2匹前後の肉食昆虫のことだが、そのずぼらな捕食行動が、主人公のだめ男、川瀬と重なり面白い。（野元 正・作家）